

異常がないのに警報音が鳴ったり、ランプが点滅したときの処置のしかた

ガスやCO以外の空気の汚れて、ガス警報ランプ(赤)やCO警報ランプ(黄)が点滅したり、警報音が鳴ったときは

《警報音を止めたとき》

警報停止スイッチを押すと、
●ガス警報の警報音は約5分間止めることができます。
●CO警報は、CO警報ランプ(黄)がゆっくり点滅(5秒ごとに1回点滅)しCO警報音が鳴っている場合のみ、警報音を1回だけ約5分間止めることができます。
※警報器周囲の空気の汚れが十分換気できていない場合、停止時間経過後に再び警報音を発します。

1 ドアや窓を開け、しばらく換気を続ける。

2 警報器周囲の空気の汚れがなくなると、ランプの点滅や警報音が止まる。

火災以外の熱で火災警報音が鳴ったときは

《火災警報音を止めたとき》

警報停止スイッチを押すと、火災警報音を約5分間止めることができます。
※警報器周囲の熱が規定温度(約65℃)以下になっていない場合は、約5分後に再び火災警報を発します。約5分後に再警報してもスイッチを再度押すことで警報音を止めることができます。

1 ドアや窓を開け、しばらく換気を続ける。

2 警報器周囲の温度が規定温度(約65℃)以下になると、警報音が鳴りやむ。

警報音が鳴ったり、ランプが点滅した原因について

以下の原因が考えられますので、調べてください。

- 長い間開け切れたお部屋や、高気密住宅などの換気回数が少ないお部屋に設置されている場合、ガスセンサの感度に影響を及ぼす室内の滞留成分(シリコンや溶剤に含まれる揮発性成分、フロングス[エアコンの冷媒ガスなど]の作用により警報が鳴りやすくなることがあります。また、まれに鳴り続けることがあります。
- 食材などが発生する揮発性成分の作用により警報が鳴りやすくなることがあります。また、まれに鳴り続けることがあります。

《ガス警報、CO警報》

- スプレー式殺虫剤やヘススプレーなどを、警報器にかけていませんか。
- タバコの煙を警報器に吹きかけませんか。
- 芳香剤・香油(アロマオイル)などの濃いガスが警報器にかかっていますか。
- 線香の煙が警報器にかかっていますか。
- 溶剤、シンナー、ベンジンなどを大量に使用していませんか。
- アルコール類やくん煙式、くん蒸式の殺虫剤が高温度になっていませんか。
- フロリングのワックス、溶剤を含む接剤器を使用していませんか。
- 焼き魚の煙などが警報器にかかっていますか。
- みりんや酢などの調味料成分を含んだ蒸気が、警報器に大量にかかっていますか。
- 可燃性のガスなどを使用していませんか。
- 換気が十分でない状態で、湯沸器を使用していないか。
- ガスコンロの着火ミスが頻りに発生していませんか。
- 自動車の排気ガスが室内にこもっていませんか。
- 灰火や線香を使用していませんか。
- 換気扇を回さずに大鍋(業務用)で湯を沸かしていませんか。火点初期時にCOが発生し、CO警報を発することがあります。
- 警報器を設置した状態で十分な換気をせずに内装工事(リフォーム含)を行っていますか。揮発成分がセンサに影響を与え、誤報を誘発します。また、内装工事(リフォーム含)を終えた段階でも、十分な換気が行われなかった場合、同様の事象が発生します。

《火災警報》

- 調理中の熱がこもっていますか。
- エアコンなどの空調機器の熱が直接警報器に当たっていませんか。
- 熱感知部が故障している可能性があります。

おねがい

ガスめれやCO発生ではなく、空気の汚れなどにより、ガス警報ランプ(赤)・CO警報ランプ(黄)が点滅したり、警報音音が鳴る場合がありますが、すぐに鳴りやみますので、ドアや窓を開け、しばらく換気を続けてください。その際、警報器の電池を抜かないでください。

ランプ表示・警報音出力の事象一覧表

電圧表示	緑(点滅)	黄(CO警報)	赤(ガス警報)	赤スラド(火災警報)	音声内容	事象	対応方法
●	○	○	○	○	なし	通常動作(監視中)	—
●	○	○	△	○	なし	ガス注意報	P5-6参照
●	○	○	○	●	ガス警報音声 「ウーワー・ピッピッピッ」 ガスがもれていませんか?	ガス警報とCO警報	P5-6参照
●	○	△	○	○	なし	CO注意報	P5参照
●	○	△または○	○	○	CO警報音声 「ウーワー・ピッピッピッ」 ガスがもれていませんか?	CO警報とCO注意報	P5-6参照
●	○	△	△	○	なし	ガス注意報とCO注意報	P5参照
●	○	△	○	○	ガス警報音声 「ウーワー・ピッピッピッ」 ガスがもれていませんか?	ガス警報とCO注意報	P5-6参照
●	○	△または○	△	○	なし	CO警報とガス注意報	P5-6参照

電圧表示	緑(点滅)	黄(CO警報)	赤(ガス警報)	赤スラド(火災警報)	音声内容	事象	対応方法
●	○	△または○	○	○	ガス警報音声 「ウーワー・ピッピッピッ」 ガスがもれていませんか? CO警報音声 「ウーワー・ピッピッピッ」 ガスがもれていませんか? CO警報音声 「ウーワー・ピッピッピッ」 ガスがもれていませんか?	ガス警報とCO警報	P5-6参照
●	○	○	○	○	故障警報音声 「故障です」(1時間ごと) 警報停止スイッチを押した状態で「ピッピッピッ」(1分ごと)	故障警報 (警報器が故障致す可能性により故障と判断した状態)	販売店に連絡してください
●	○	○	○	○	なし	有効期限切れ (警報器の有効期限が半年以上過ぎた状態)	販売店に連絡してください
△	1回/10秒点滅	○	○	○	電池切れ音声 「電池切れです」 警報停止スイッチを押した場合「ピッ」(1分ごと)	電池切れ	販売店に連絡してください
●	○	○	○	●	なし	火災警報	販売店に連絡してください
●	○	○	△	●	火災警報音声 「ウーワー・カンカンカン」 火災警報停止が作動しました 確認してください!	火災警報とガス注意報	販売店に連絡してください
●	○	○	○	●	2分後の音声 「ウーワー・カンカンカン」 火災です! 火災です!	火災警報とガス注意報とCO注意報	P4参照
●	○	△	△	○	なし	火災警報とガス注意報とCO注意報	販売店に連絡してください
●	○	△	○	●	火災警報とガス注意報とCO注意報	販売店に連絡してください	販売店に連絡してください
●	○	△または○	○	●	火災警報音声 「ウーワー・カンカンカン」 火事です! 火事です!	火災警報とガス注意報とCO注意報	販売店に連絡してください
●	○	△または○	△	○	なし	火災警報とガス注意報とCO注意報	販売店に連絡してください
●	○	△または○	○	○	なし	火災警報とガス注意報とCO注意報	販売店に連絡してください

●:点滅(1秒ごとに1回)、△:ゆっくり点滅(5秒ごとに1回)、●:点灯、○:消灯
※故障したときは、上記以外の表示音声を発する場合があります。この場合、販売店にご連絡ください。

お手入れのしかた

1 警報器を取り外す。(P.8-9参照)

2 警報器および取付付近の壁面の汚れをふ取る。

布に水または石けん水を湿し、よく絞ってからふき取ってください。

おねがい

- お手入れするときは、警報器の内部に水が入らないように注意してください。
- お手入れするときは、中性洗剤、アルカリ洗剤、塩素系漂白剤、ベンジン、シンナー、アルコールは使わないでください。アルカリ性洗剤などを使うと、警報器本体の表面に傷がついたり、しばらくガス警報ランプ(赤)が点滅したり、警報音が鳴りやまないことがあります。

3 警報器を取り付け。(P.8-9参照)

4 本体を取り付けから、正常に動作することを確認する。(P.10参照)

警報器の取り外し・取り付けかた

■木ねじの場合

《取り外しかた》

木ねじをゆるめて警報器を取り外す。

《注意》

強く引っ張ると取り付けている木ねじが折れたり、木ねじから警報器が外れたりして、落下する恐れがあります。

《取り付けかた》

1 警報器を木ねじに引っ掛ける。

2 木ねじを締め付けて固定する。

《確認》

警報器が確実に固定されていることを確認してください。

■取付フックの場合

《取り外しかた》

本体を持ち上げて取り外す。

《取り付けかた》

警報器を取付フックに引っ掛ける。

《確認》

警報器が確実に固定されていることを確認してください。

噴霧式殺虫剤を使用するときは

噴霧式殺虫剤の噴射ガスに反応して警報器が鳴る場合があります。次の処置を行っていただく、警報器が鳴り出すのを防ぐ効果があります。

△ 警告

噴霧式殺虫剤を使用した後は、必ず部屋の換気をし、ボリ袋から取り出してください。

警報器が作動しません。

△ 注意

警報器の壁面からの取り外し・取り付けは、高いところでの作業になりますので、しっかりした踏み台を使って十分に注意して行ってください。転落、転倒、落下の原因になります。

1. 警報器をボリ袋の中に入れて

警報器を取り付けている部屋で噴霧式殺虫剤を使用するときは、警報器が噴射ガスに反応して警報音が鳴る恐れがありますので、必ず警報器は以下の処置をしてください。

《準備するもの》

- ボリ袋 (30cm×40cm・1枚)

ボリプロピレン製( またはPP<表示

※ボリエチレン製でも一定の効果があります。

- ひも(1本)

《処置のしかた》

①警報器を取り外してください。(P.8参照)

②警報器をボリ袋の中に入れ、袋の口をひもで縛ってください。

③ボリ袋を傷めないように、警報器を安定するところに置いてください。

2. 噴霧式殺虫剤を噴霧する


以下のようなどきは、ボリ袋で覆っていても警報音が鳴ることがあります。噴霧式殺虫剤を使用するときは、事前に住宅管理者や近所の方に、連絡しておいてください。

- 部屋の広さに比べて、極端に大きな容量の噴霧式殺虫剤を使用するとき。
- 必ず、部屋の広さに応じた容量の噴霧式殺虫剤をご使用ください。
- 噴霧式殺虫剤を警報器の真下で使用したとき。
- 警報器の真下は避けてください。
- ボリ袋に破れや穴があると、警報器をボリ袋で覆う前に、石油系溶剤やアルコール類などを使用していただきます。
- ガス検知部に影響を与える成分が封じ込められます。
- 経年変化によって、ガス検知部が敏感になっているとき。

3. ボリ袋から取り出す

噴霧が終わったら、ボリ袋から取り出し、警報器を元の位置に取り付けてください。

定期点検

日常、警報器の液晶通電表示が  になっていること、おしらセランプ(緑)が点滅していること、おしらセランプ(緑)が点滅したとき、赤ランプや黄ランプが点滅・点灯したり、警報音が鳴る。

日常点検

※液晶通電表示が  であったり、おしらセランプ(緑)が点滅している場合は、販売店に連絡してください。(「P.10」故障かな?と思ったら」を参照ください)

定期点検

警報器が正常に動作していることを確認するために、1ヶ月に1回程度、定期点検を行ってください。(1週間以上留守にされた場合も点検を行ってください。留守中の電池切れ警報を、確認できない恐れがあります。)

- 警報器が警報動作中や警報音停止中でないことを確認してください。
- 警報停止スイッチを約1秒間押すと「ピー」と鳴りおしらセランプ(緑)が早い点滅を開始します。
- 「ピー」を鳴ったすぐに手を離してください。
- 点検時間が約1秒間点灯し、「正常です」が1回鳴れば正常です。

《過去約10日以内に警報が作動した場合》

全ランプ点灯後に、最後に作動した警報の原因に伴ったランプが、1秒間点灯します。(鳴動原因表示機能によるものです)

警報音確認

△ 警告

- 点検時、決してライターなどの炎を使用しないでください。
- 警報器の破損や火災の原因になります。
- 点検するときは、必ず安定した位置に乗ってください。転倒してけがをする恐れがあります。




- 警報停止スイッチを約3秒間押すと「ピッ」音の後「ピッピッ」と開始音が鳴りおしらセランプ(緑)が早い点滅を開始します。
- 警報停止スイッチから手を離すと以下のよう動作します。

動作・作順	音声内容	緑(おしらセ)	黄(CO警報)	赤(ガス警報)	赤スラド(火災警報)
1	ウーワー・カンカンカン 火災警報器が作動しました確認してください	早い点滅	—	—	点灯
2	ウーワー・カンカンカン 火事です! 火事です!	早い点滅	—	—	点灯
3	ウーワー・ピッピッピッ ガスがもれていませんか?	早い点滅	—	点滅	—
4	ウーワー・ピッピッピッ ボツ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください	早い点滅	点滅	—	—

③「ピー」と終了音が鳴り、監視状態(おしらセランプ(緑)消灯)に戻ります。

※音声警報中に点検を終了したい場合は、警報停止スイッチを押すと、「ピー」と鳴り、終了します。

故障かな?と思ったら

こんなときは	ここを確認して	こう処置してください
液晶通電表示が  になっている。(正常動作時は )	起動プラグの位置を確認してください。	起動プラグを押し込んでください。(P4「使用方」参照) 液晶通電表示が  のままの場合、販売店に連絡してください。
おしらセランプ(緑)が点滅している。	10秒ごとに3回点滅 警報器の故障を知らせています。	販売店に連絡してください。
ガス注意報	10秒ごとに1回点滅 警報器の電池切れを知らせています。	販売店に連絡してください。
ガス警報	10秒ごとに2回点滅 警報器の有効期限切れを知らせています。 警報器の有効期限ラベルに記載の有効期限が切れていませんか。	有効期限が切れていれば、販売店へ連絡してください。

火災、ガスめれ、COの発生ではないのに、赤ランプや黄ランプが点滅・点灯したり、警報音が鳴る。

原因を調べてください。(P.7参照)

ガス機器の異常が考えられます。

ガス機器以外の燃焼機器の異常が考えられます。

10日以内に警報を発していませんか。おしらセランプや黄ランプが長く点灯、点滅します。

鳴動原因表示機能によるものと、故障は異なります。(「P.10」定期点検」参照)

アフターサービスについて

- この警報器は、5年間の無償保証です。この取扱説明書に書かれている内容を守っていただく上で、警報器の訂正し作動しないことが判明した場合には無償でも取り替えます。ただし、保証書裏面「5」の項目に該当する場合は、この限りではありません。保証書をご参照ください。
- この警報器の有効期限は、ご使用開始後5年間です。有効期限とは警報器の性能を保証できる期間であり、5年を経過したものは、規定のガス濃度で警報しないなど誤作動の恐れがありますので、ぜひ新しい警報器とお取り替えください。
- 「リース契約書」もしくは「警報器登録票」に販売店(リース取扱店)名の記入のないものは保証内容が無効となる場合がありますので、お取り付け時に確認してください。
- リース契約の大阪ガスまでご連絡ください。
- 警報器の有効期限を過ぎたときは、販売店(リース取扱店)または、最寄りの大阪ガスまでご連絡ください。
- 動作点検をご希望の場合には、有償にて点検いたします。
- 引越しやお部屋の模様替えなどで警報器を移動する場合は、販売店(リース取扱店)または、最寄りの大阪ガスまでご連絡ください。

登録

この警報器は、コンピュータに登録して管理させていただきます。登録は、取り付け時もしくは開栓時に発行、登録済みの警報器の有効期限ラベルには有効期限が記入されていますので、ご確認ください。また、有効期限の記入のないラベルは未登録の場合がありますので、販売店(リース取扱店)または、最寄りの大阪ガスまで登録してください。(保証書と有効期限ラベルの期日が異なる場合は、有効期限ラベルの期日が、この警報器の有効期限です。)有効期限の約1ヵ月前に、登録されているものについては、当社よりお知らせします。有効期限を過ぎた場合は、新しいものとお取り替えください。

廃棄について

△ 警告

取り出した専用リチウム電池のコネクタは、ショートしないようにテープなどを巻いてください。リチウム電池の廃棄方法を誤ると、ショートして発熱・破裂・発火することがあります。また、ケガをしたり、火災の原因になります。

《リース契約の警報器の廃棄》

有効期限が過ぎた警報器は、販売店(リース取扱店)にて回収いたします。

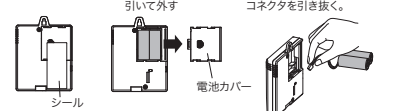
《お買い上げいただいた警報器の廃棄》

- 販売店(リース取扱店)に、廃棄を依頼される場合
販売店(リース取扱店)の店頭で回収しています。
お近くの販売店(リース取扱店)にお持ち込みください。
- お客様まで廃棄される場合
お住まいの市町村の廃棄物の処理方法にしたがってください。
※必ず専用リチウム電池を取り出し廃棄してください。

《警報器と専用リチウム電池の分別のしかた》

本体裏面の電池カバーを外し、専用リチウム電池を持ち上げた後、コネクタを引き抜いて専用リチウム電池を取り出します。

①シールを剥がす ②電池カバーを横に引いて外す ③専用リチウム電池を取り出し、コネクタを引き抜く。



仕様

項目	仕様
火災・ガス・CO警報機能	別 別 別 型 式 番 号 別 検 知 原 理 定温式住宅用ガス警報器 公 称 作 動 温 度 住警番2020-7号 燃 焼 材 質 半導体(サーミスタ使用) 住宅用防火警報器 検定合格品
対 象 ガス	都市ガス(空気が軽い12A・13Aガス用) 燃焼排ガス中のCO
検 知 方 式	半導体式
都市ガス注意報	作動条件 ガス警報濃度以下の都市ガスに対し注意報 表 示 ガス警報ランプ(赤)ゆっくり点滅 (5秒ごとに1回点滅) 発報方式 発報音無し
ガス警報	作動条件 *爆発下限濃度1/4の都市ガスに対し60秒以内に警報 表 示 ガス警報ランプ(赤)点滅 (1秒ごとに1回点滅) 発報方式 音声合成警報音
CO警報	検 知 方 式 電気化学式 作動条件 300ppmのCOに対し5分以内に注意報 表 示 CO警報ランプ(黄)ゆっくり点滅 (5秒ごとに1回点滅) 発報方式 発報音無し
共通仕様	作動条件 550ppmのCOに対し5分以内に警報 300ppmのCOに対し10分以内に警報 CO警報ランプ(黄)点滅 (1秒ごとに1回点滅) またはゆっくり点滅(5秒ごとに1回点滅) 表 示 音声合成警報音
電 源	一般財団法人 日本ガス機器検査協会(11A) 都市ガス用定温式ガス警報器検査規程 認証合格品
警 報 音 量	70dB(A)/m以上
電 圧	DC3V(専用リチウム電池)、CR17450E-R-2-CN
使 用 温 度 範 囲	0℃～+40℃(結露しないこと)
寸 法 ・ 質 量	幅85×高さ100×奥行33mm(突起部を除く)、約140g
付 属 品	木ネジ(φ3.1×16mm)×1、取扱説明書(保証書付)(本書)×1 リースシール×1

* 爆発は空気とガスの混合割合が一定範囲で起こる可能性があります。その範囲を爆発限界とって、最高濃度を爆発上限、最低濃度を爆発下限といいます。

取付位置の確認

△ 注意

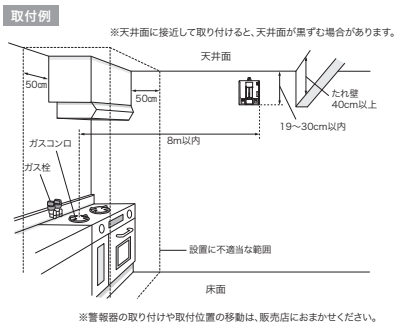
正しい取付位置に取り付けられていることを確認してください。

取り付けではない場所に取り付けられていると、警報の遅れ、誤報、故障の原因となります。

《正しい取付場所について》

- ガス、COを検知しようとするガス機器を設置している場所と、同一の室内に取り付けてください。
- ガスやCOが滞留しやすい位置で、警報器の各種ランプの確認しやすい位置、点検が容易にできる場所へ取り付けてください。
- ガス、COを検知しようとするガス機器(一定位置に固定しないで使用されるガス機器の場合、ガス栓)から、水平距離で8m以内、警報器の底面から天井面までの距離が19～30cm以内の位置に取り付けてください。
- たれ壁やはから40cm以上離してください。
- 換気口など、空気の吹出口から1.5m以上離してください。
- 天井面が40cm以上の突出したたれ壁などによって区画される場合は、たれ壁より燃焼器具側に取り付けてください。
- 天井に天井面が40cm以上の突出したたれ壁などによって区画される場合は、たれ壁より燃焼器具側に取り付けてください。

※天井面に接近して取り付けると、天井面が曇る場合があります。




※警報器の取り付けや取付位置の移動は、販売店におまかせください。

《取り付けてはいけない場所について》

以下の場所には、絶対に警報器を取り付けしないでください。

- レンジフード内やレンジフード本体への取り付け。
アルコル等で警報することがあります。
- 換気扇、給気口、ドア付近など風通しの良い場所。
- すず間風の入る場所。
- 30cm以内(警報器含)のたれ壁などの。
- カーテンウォールなどで仕切られた場所。
警報が遅れます。
- 振動、衝撃の大きい場所。
センサの故障の原因になります。
- 浴室、水のかかる場所、水滴がつかず場所。
電気的故障の原因になります。
- 温度が0～+40℃の範囲をこえる場所。
警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。
- 照明器具などから発生する熱の影響を受ける場所。
センサの故障の原因になります。
- ガス検知口に他の機器などを密着させないでください。
警報が遅れることがあります。
- 食器棚などの上部。
警報が遅れます。
- 業務用・工業用。
家庭用です。業務用・工業用ではありません。
- 屋外。
屋外用ではありません。

- ガス機器をご使用のときは、換気にご注意ください。
- お使いになった後は、器具栓だけではなくガス栓も必ず閉めてください。
- ゴム管は、良質の大阪ガス製  マーク入りのものをお使いください。そして、ガス栓については赤線のところまで深くさし込み、必ずゴム管止めでめてください。
- お使い